



ヒマワリ

105 編は「民族発祥の頌歌」ともいうべき賛歌です。6 連から成りますが、1、2、3 連ではアブラハム、イサク、ヤコブの名が挙げられ、4、5、6 連ではヨセフ、モーセ、アロンの名が挙がっています。彼らは **主に選ばれた人々よ(6)** と呼ばれ、イスラエルの民族の基礎となった人々です。

まず、民がすべきことを1~5節で歌っています。端的に述べると ①**主に感謝をささげて** ②**御名を呼べ。** ③**諸国の民に御業を示せ(1)** とあり、感謝、祈り、宣教とが命じられています。それを、**主に向かって歌い、ほめ歌をうたい／驚くべき御業をことごとく歌え(2)** と、ひたすら歌うことにより、為せと命じているのです。このことによって、民は **御名を誇り、心に喜びを抱き(3)**、一つの民、**主を求める人(3)** となるのです。

まず、神は主の僕アブラハムと契約を結ばれました。神はイサクにアブラハムとの契約を誓いました。そして、神はヤコブに「イスラエルへのとこしえの契約」として、これを神の掟とされました。その契約とは「わたしはあなたにカナンの地を／嗣業として継がせよう(11)」というものです。

その頃のイスラエルは **その地で、彼らはまだ数少なく／寄留の民の小さな群れで／国から国へ／ひとつの王国から他の民のもとへと移って行った(12-14)** という、弱小の寄る辺ない民でした。けれども **主は彼らを虐げることをだれにも許さず／彼らのことを、王たちに戒めて言われた／「わたしが油を注いだ人々に触れるな／わたしの預言者たちに災いをもたらすな」と(14-15)** と守られました。ここまでの記述は歴代誌上 16 章 8 節~22 節の賛歌と全く同じです。歴代誌では、「契約の箱を天幕に納めた時」に、ダビデが **アサフとその兄弟たちに、主に感謝を捧げる務めを託した(歴上 16:7)** とあり、その折にこの賛歌が捧げられていますので、アサフの賛歌を引用した詩編と言えます。

後半の4、5、6連は舞台がエジプトとなります。**奴隷として売られたヨセフ** が登場しますが、彼は **あらかじめひとりの人を遣わしておかれた(17)** と、神の計画であったと記されています。やがて **主の仰せが彼を火で練り清め(19)**、彼は王宮の頭となり、民はエジプトに寄留します。けれども、**主は御自分の民を大いに増やし／敵よりも強くされた(24)** ため、エジプトで憎まれることとなります。その時 **主は僕モーセを遣わし／アロンを選んで遣わされた(26)** ことによって、エジプトに **闇、血、蛙、あぶ、ぶよ、雹、イナゴ、(疫病、腫物)、初子を撃つ** の災いをもたらして、イスラエルの出エジプトを可能とさせました。エジプトを出た後も **主は雲を広げて覆いとし／火をもって夜を照らされた。／民が求めると、主はうずらをもたらし／天のパンをもって彼らを満足させられた。／主が岩を開かれると、水がほとばしり／大河となって、乾いた地を流れた(39-41)** と旅路を守られました。

とうとう **主は彼らに諸国の土地を授け／多くの民の労苦の実りを継がせられた。／それゆえ彼らは主の掟を守り／主の教えに従わなければならない。ハレルヤ(44-45)** と、主がアブラハムと交わした契約を成就されたことを、真摯に受け止めるよう、歌っていますが、**彼ら** の訳に違和感を覚えます。

『讚美歌 21』では関連讚美歌がありませんが、467「われらを導く」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-05-31> は後半部分を伝えてくれます。ジュネーブ詩編歌は様々な楽器の多重録音による演奏です。
https://www.youtube.com/watch?v=zA_Xv02Yji8&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=105